

復習用スライド

前回の復習

06月06, 13, 20日の講義

企業による企業内部での 生産力上昇

- 資本主義的なメカニズムにおいては、
社会全体の生産力水準の上昇は、
個々の企業の実力の上昇によってもたらされた。
- 個々の企業の実力の上昇には：
 1. 単なる外的環境の幸運（今年の天気は農作物の育成に最適だった、社会の教育水準が上がった、等々）
によって個々の企業に外生的に与えられたもの。
 2. 個々の企業が意図的・内生的に導入したもの。
これが技術革新、またはテクノロジカルな

○○○要因と生産様式

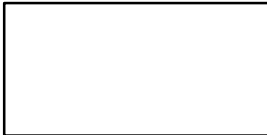
■ 生産様式

- 労働過程における諸契機の結合の様式
 1. 個人的労働
 2. 労働対象
 3. 労働手段
 4. 社会的労働
- 個々の契機の変化，あるいはそれぞれの契機の結合の変化によって，変革される。換言すると，新しい





要因によって変革される。

まとめ

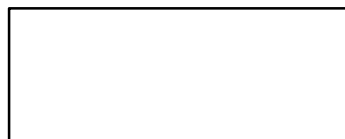
新しい生産力	生産様式
協業	 協業
分業	分業に基づく協業
科学的知識の 意識的・計画的適用	現代的産業

社会的労働過程の2つの契機

	個人的労働過程	社会的労働過程
前	構想	
中	意志	

協業のメリット： 多数者雇用一般から生じるメリット

- そもそも、協業しなくても（労働者同士が協力し合わなくても），それどころか，労働過程が始まる前から，



使用によって

生産手段が節約されている。

- 労働手段は大規模生産の方が労働者一人あたりのコストが安くつく。
- 労働対象は大規模生産の方がロスが少ないし，廃物利用も可能になる。

労働の社会的生産力

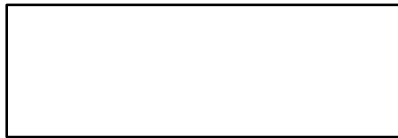
1. 量的に個人的生産力の総和を超える
2. 質的に個人的生産力では不可能
3. 社会的労働によって初めて可能になるような、競い合いによる個人的生産力の上昇
 - 1および2は個人に解消できないような固有の社会的生産力
 - 社会的労働を組織しているのは同一の企業なのだから、どれも、企業の生産力、すなわち



の生産力として現れる。

競争と○○○○

- 労働者間での競争
 - そもそも競争は市場における資本の外的条件である。
 - 何よりも先ず（内部・外部）労働力市場において、しかしそれを通じて生産過程の内部でも
 - 従業員間での、従業員・不安定被雇用者・完全失業者の間での
 - 互いを蹴落とし合い、自分だけが生き残る。



- 労働者間での
 - 協業（社会的労働過程）の内的原理
 - 互いに刺激を与え合い、互いの能力を伸ばし合い、こうして全体最適を達成する。

解答

1. イノベーティブ
2. 生産力
3. 単純
4. 計画
5. 権威
6. 共同的
7. 資本
8. 競い合い